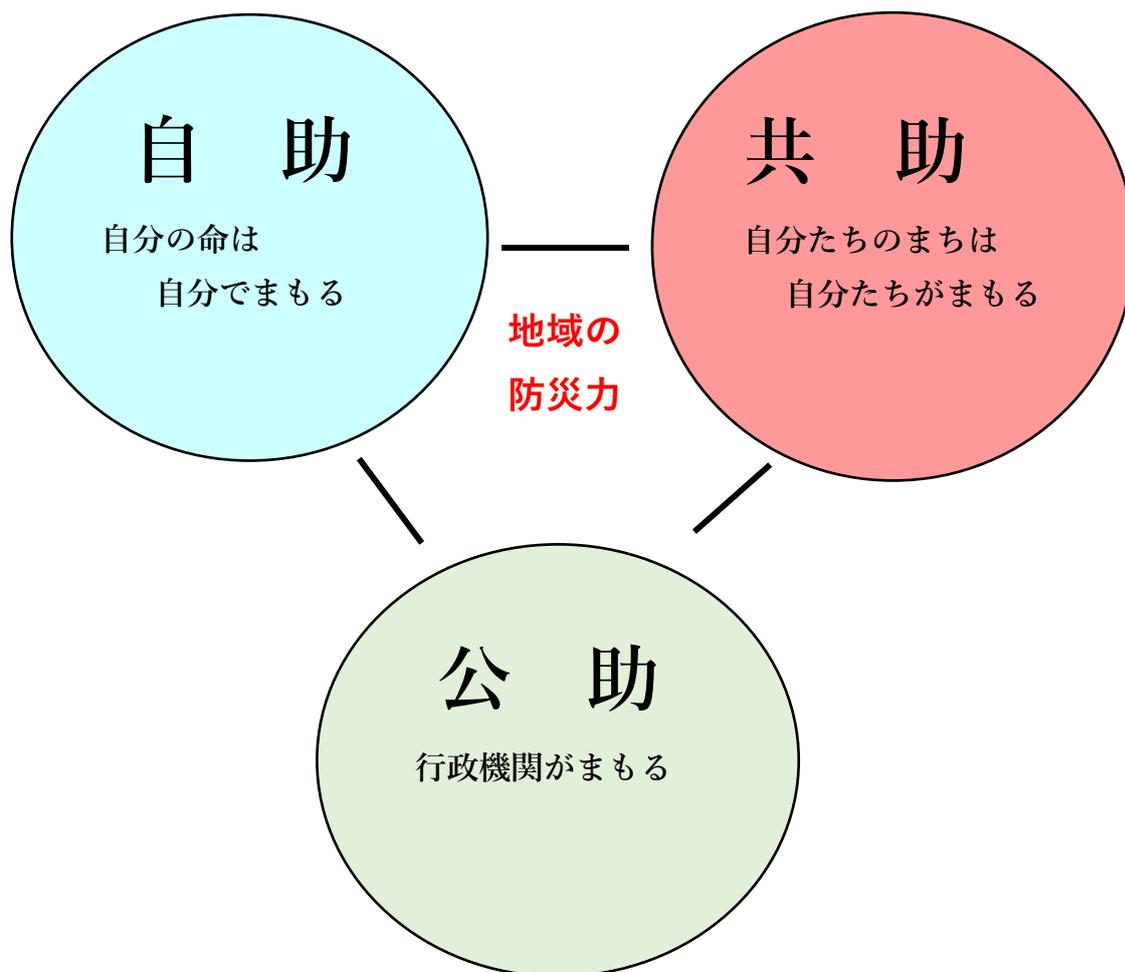


自主防災組織活動の手引き

安心して暮らせる災害に強い地域社会を目指して

(ダイジェスト版)



令和4年1月

粕屋北部消防本部



はじめに

近年は、災害の様相が大きく変化しています。巨大化する台風、局地的な豪雨、思いがけない地震等による大規模な自然災害が全国各地で猛威を奮い、多くの尊い人命や貴重な財産が奪われています。

当消防本部管内（古賀市、新宮町）では近年、このような災害が発生しておりませんが、甚大な災害は、いつでもどこでも起こり得る時代になったことを強く意識する必要がありますし、しっかりと備えること、そして構えることが大切です。

このように、住民一人ひとりがこれまで以上に自助意識を高めることが大切であり、何よりも自助と共助を主体とする自主防災組織の確立こそ不可欠です。また、避難行動要支援者を支える地域活動の強化も自主防災組織には欠かせません。

一方、少子高齢化の進展という背景やコロナ禍の影響から、地域防災の担い手の減少や地域の絆を強めることが新型コロナウイルスの感染リスクを高めることになるなど、地域防災活動の取り組みに様々な課題が浮上しております。

これからは感染防止を図りながら、人と人の繋がりを維持する取り組みを構築していかなければなりませんし、新しいニーズに応えるために自主防災組織の進化と強化を図ることが急がれます。

こうした新たな課題に向き合うために「自主防災組織の手引き」のダイジェスト版を策定いたしました。これから自主防災組織の結成をお考えの方、既に自主防災組織を結成されている方で自助と共助の取り組みを理解するための一助にして頂ければ幸いに存じます。

令和4年1月

粕屋北部消防本部



1 自主防災組織について

■ みんなで地域の防災力を高めよう！

- ・ 自主防災組織はなぜ必要？
- ・ 自主防災組織の役割はなに？

地域の防災力を高めるためには、自主防災組織設立が必要不可欠であり、自助、共助、公助の連携の中に、「共助」自主防災組織が組織として機能することでできれば、共助の力を強くする。また、自主防災組織の役割とは何か？にも触れています。



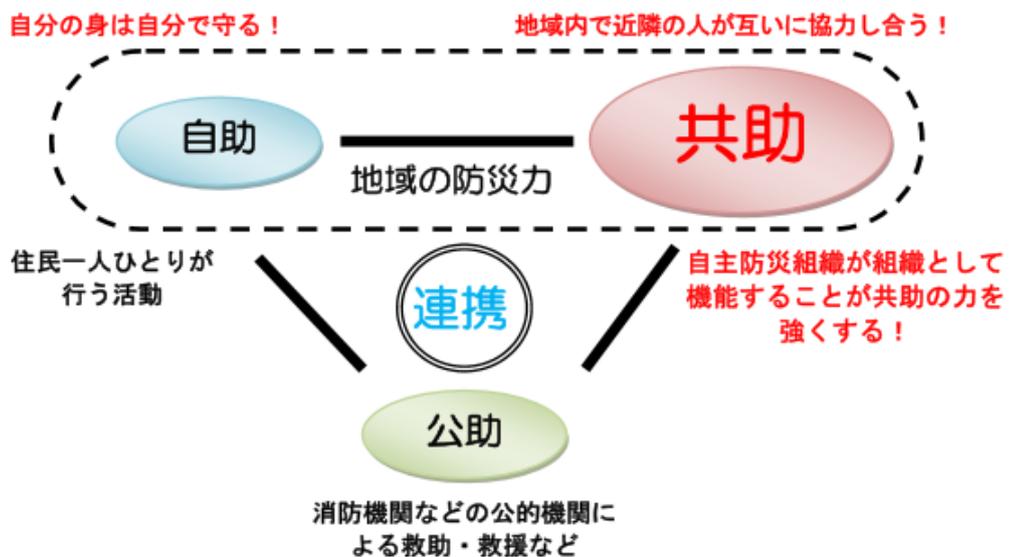
1 自主防災組織について

みんなで地域の防災力を高めよう

- 自主防災組織は **共助** の活動を担い、住民一人ひとりの活動（自助）とともに、地域の防災力を高める必要不可欠な存在です。
- いざというときに機能するよう、自主防災組織の担う役割を理解し、取り組んでいくことが特に重要です。

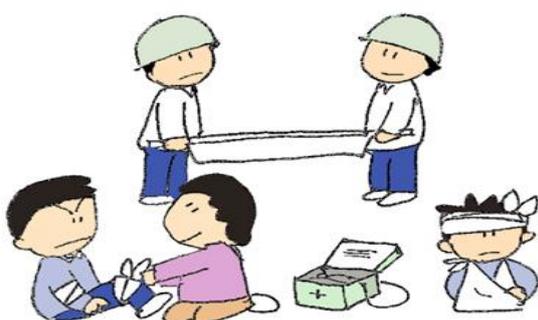
自主防災組織はなぜ必要？

自主防災組織は、地域の防災力を高めるために必要不可欠な存在であり、下図に示すように、「共助」の活動を担います。そして、「自助・共助・公助」が相互に連携することで災害時に力を発揮します。



自主防災組織の役割は何？

災害時における自主防災組織の役割は、地域で連携して被害を最小限に抑えることです。特に災害発生直後は、人命救助や初期消火に努めることで、被害の軽減に大きな役割を果たします。



2 自主防災組織の整備・運営

■ 地域にあった、継続して活動できる組織作りをめざそう！

- ・ 効果的な組織にしていくためには？
- ・ 計画的・継続的に活動するためには？

地域に沿った継続できる組織作りをしましょう。組織表の編成も参考され、全体が円滑にまわるようにしましょう。校区単位、行政区単位の他に組合単位や班といった活動も有効であります。

組織の運営には、規約の作成が必要であります。また、地域の事情を踏まえた台帳整備、活動目標・年間活動計画等をたてましょう。



2 自主防災組織の整備・運営

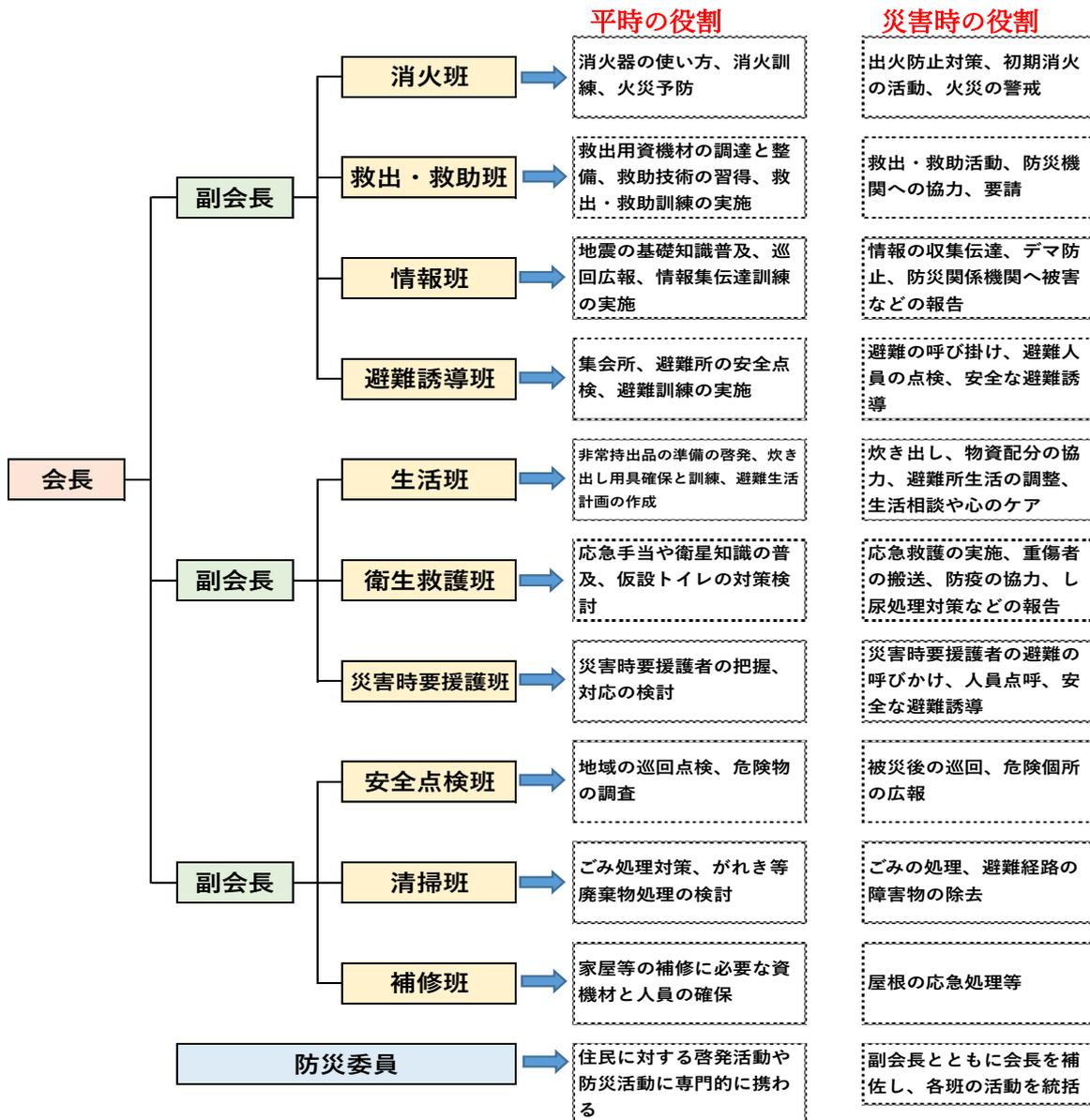
地域に合った、継続して活動できる組織作りをめざそう

- 日常・災害時に偏りのない人員、活動内容や地域の状況に合った組織を編成しましょう。お互いの役割を理解しておくことも重要です。
- 継続して活動できる組織づくりを心がけ、さまざまな世代の方が参加できるしくみをつくることが大切です。

効果的な組織にしていくためには？

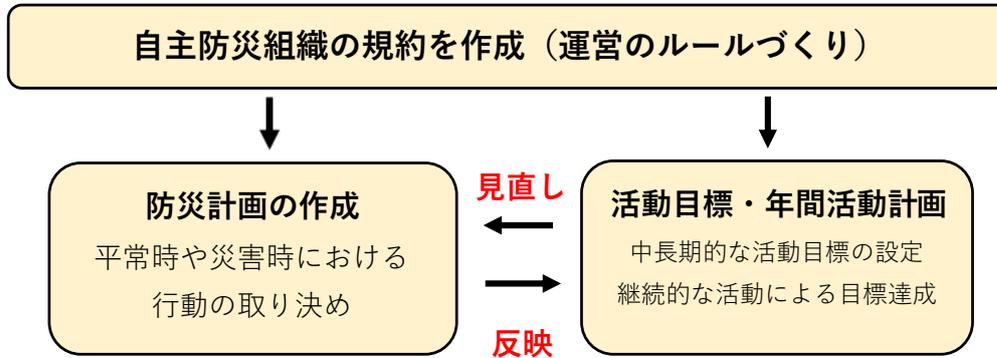
効果的な自主防災組織にしていくためには、災害時に地域の防災力を最大限に発揮することができるよう、地域の皆さんで組織を編成します。まずは組織のまとめ役（区長）のもと、活動する班や構成員一人ひとりの役割を決めましょう。

基本的な班編成と各班の日常時・災害時の役割は次のとおりです。



計画的・継続的に活動するためには？

自主防災組織を計画的・継続的に運営するためには、組織の運営のルール（規約）を作成しておく必要があります。行政区で作成する防災計画や年間の活動目標、活動計画を立て、見直しながら計画的・継続的に活動しましょう。



- 活動目標を定期的に見直しながら、活動計画を実施する。
- 実際の活動状況をもとに、防災計画を見直し、活動目標や活動計画へ反映する。

◎ 活動計画を作成するポイント

- 段階的に活動目標を修正しながら活動レベルの向上に努め、地域の防災活動について継続的に取り組む姿勢で検討しましょう。
- 年間計画に特徴をもたらせるため、年毎の重要項目（目玉になる活動）を決めることも工夫のひとつです。

そのほか、日ごろの活動に参加が困難な場合でも、災害が起きたときに協力をお願いするといったかたちで「自分はこんなことができる」という特技を地域で登録し、災害時の活動に協力してもらうことで、災害時の役割を充実させることも重要です。



3 活動の活性化・地域防災力の向上に向けて

■ 多世代の参加や他団体の連携を促し、活動を活性化させよう！

- ・活動の参加を増やしていくためには？
- ・他の団体と協力していくためには？

防災訓練を活性化させるため、地域実情に応じた訓練、各種訓練のやり方、取り組み方、また多くの参加者を募るためのポイントを紹介しています。初めから多くのことを求めず、確実にできることからやっていきましょう。図示を参考にされ、他様々な地域活動団体との連携協力体制を確立し、指導助言を求め、情報交換に努めましょう。



3 活動の活性化・地域防災力の向上に向けて

多世代の参加や他団体の連携を促し、活動を活性化させよう

- 訓練のテーマや地域の行事と結び付けるなど、さまざまな機会を利用し、日常の暮らしと結びつけた防災活動を進め、活動の参加者を増やしましょう。
- 自主防災組織の活動を活性化させるためには、団体間の連携や防災に関する知識を身につけることが重要です。

活動の参加者を増やしていくためには？

自主防災組織に参加してもらうためには、まずは活動内容を知ってもらい、地域の皆さんに関心をもってもらうことが重要です。そのため、訓練の実施時期やテーマ、地域行事と連携して取り組むなど、工夫しながら活動に取り組みましょう。

- ◎ 訓練の実施時期やテーマを工夫してみましょう
 - 訓練の実施日をポスター、チラシ、回覧板などで住民に周知徹底しましょう。
 - 毎回同じ曜日や時間で訓練を実施すると同じ人しか参加できないので、休日や夜間などさまざまな人が参加できる工夫をしましょう。
 - 訓練は繰り返しを行うことが大切ですが、テーマや年齢層を絞るなど訓練内容に変化をつける工夫も必要です。
- ◎ 地域行事や子ども達も参加しやすい訓練を取り入れましょう
 - 地域の防災の知識・技術を広めるためには、気軽に実施できることから始めてみるのが大切です。子どもから大人まで、楽しみながら参加できる活動を開催するとよいでしょう。
 - 地域のお祭りや運動会、とんど焼きなど多くの人が集まるイベントに水消火器での的当てゲーム、バケツリレーや簡易担架搬送リレー、土のう積み競争など防災訓練の要素をプラスすると効果的です。



地域団体と連携していくためには？

これからの自主防災組織の活動では、地域のさまざまな活動団体と有機的に連携し、地域の防災力の向上を図っていくことが求められます。防災活動や災害時の課題などから地域団体の活動との接点を見つけ、活動を広げていきましょう。活動における地域団体との連携では、おもに消防団や民生委員・児童委員、福祉委員などが挙げられます。

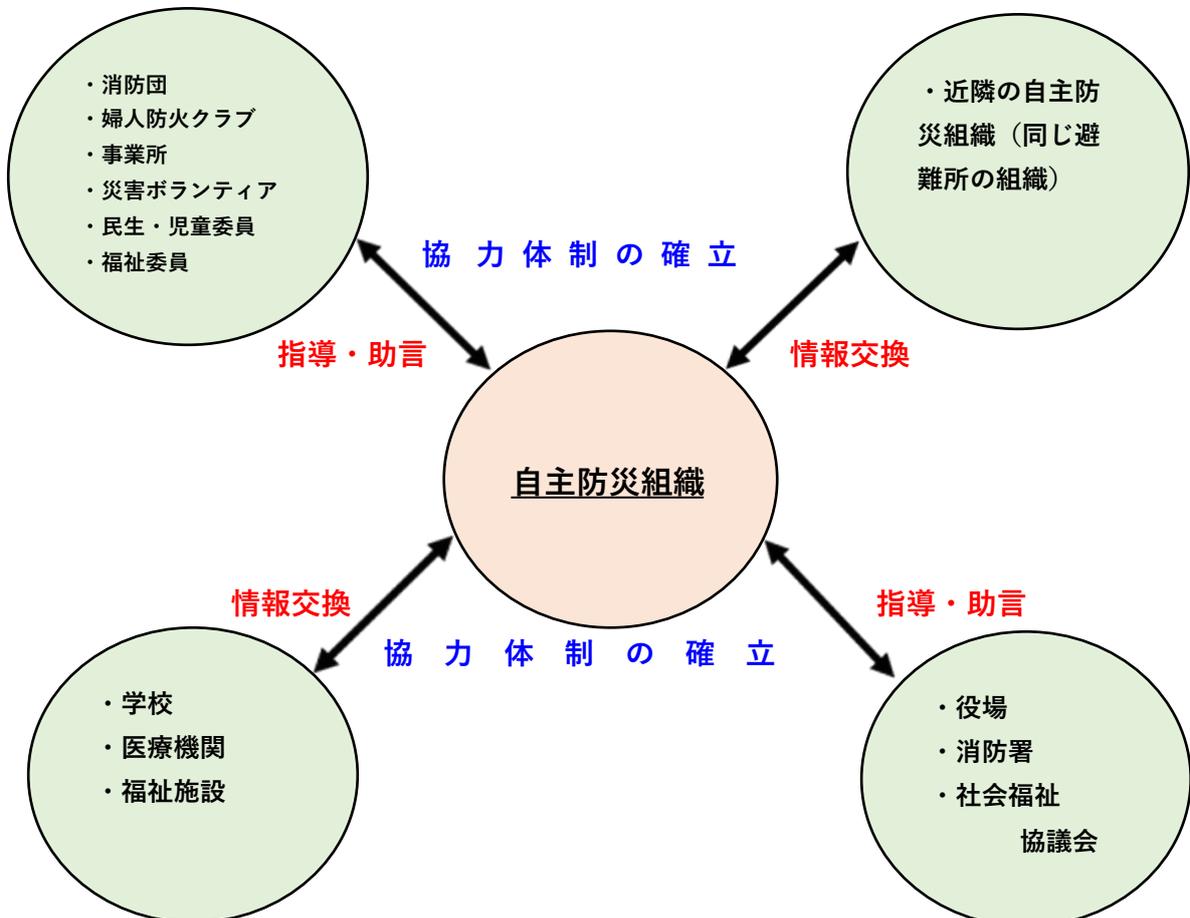
消防団との連携

消防団の方々は、地域防災力の向上に向けたよきアドバイザーとして、防災資機材の利用や訓練の指導、防災知識の普及啓発などが期待されます。

民生委員・児童委員、福祉委員との連携

民生委員・児童委員、福祉委員の方々は、地域で支援の必要な方々の身近な相談などに取り組んでおり、災害時の避難活動や避難所等での支援や協力が期待されています。

他様々な地域活動団体との連携



4 自主防災活動のポイント

■ 災害時に備え、日ごろから活動や訓練に取り組もう！

- ・ 日常時はどのような活動があるの？
- ・ 資機材の整備？
- ・ 災害時の活動？
- ・ 災害に備える訓練？
- ・ 感染症対策（避難所）？

自主活動のポイントとして、日ごろから災害に備えることで防災普及啓発、地域のマップ作り、要援護者の把握等について説明しています。備えの一つとして、どのような防災資機材が必要であるか一覧表でまとめています。また実際の災害時の活動、避難所での感染症対策にも触れています。参考としてください。



4 自主防災活動のポイント

災害時に備え、日ごろから活動や訓練に取り組もう

日常の活動の成果が災害時に活かされます。災害時の活動や訓練内容を理解し、継続して取り組みましょう。

日常にはどのような活動があるの？

日常時の活動としては、おもに次のようなものがあります。

防災知識の普及・啓発

さまざまな機会を利用して防災知識の普及・啓発に取り組みましょう。



災害危険箇所等の把握

あらかじめ地域の災害危険箇所について確認してみましょう



要援護者の把握

民生委員・児童委員・福祉委員とも連携を図りながら取り組み、避難や避難所での必要な配慮等についても把握を心がけましょう。

資機材の整備

情報収集・伝達、消火、救出・救護、避難誘導などの防災活動を行うための必要な資機材を揃えておきます。使い方がわからない資機材については、災害時に適切に使用できるように使用方法を確認しておきましょう。

目的	防災資器材一覧表
①情報収集・伝達用	携帯用無線機、受令機、電池メガホン、携帯用ラジオ、腕章、防災ベスト 住宅地図、模造紙、メモ帳、油性マジック（安否・被害状況等、情報収集・提供の 際用いる筆記用具として）等
②初期消火用	可搬式動力ポンプ、可搬式散水装置、簡易式防火水槽、ホース、スタンドパイプ、格納器具一式、街頭用消火器、防火衣、ヘルメット、水バケツ、鳶口、防火井戸等
③水防用	救命ボート、救命胴衣、防水シート、シャベル、ツルハシ、スコップ、くい ロープ、かけや、土のう袋、ゴム手袋等
④救出用	ボール、はしご、のこぎり、スコップ、なた、ジャッキ、ペンチ、ハンマーロープ、チェーンソー、エンジンカッター、チェーンブロック、油圧式救助器具、可搬ウインチ、防煙・防塵マスク等
⑤救護用	担架、救急箱、テント、毛布、シート、簡易ベット等
⑥避難所・避難用	リアカー、車いす用避難器具、発電機、警報器具、携帯用投光器、標識版、標旗、強力ライト、簡易（携帯）トイレ、寝袋、組立式シャワー等、体温計、マスク、消毒液、紙ペーパー、タオル
⑦給食・給水用	炊飯装置、鍋、コンロ、ガスポンペ、給水タンク、緊急用ろ水装置 飲料水用水槽等
⑧訓練・防災教育用	模擬消火訓練装置、放送機器、119番訓練用装置、組み立て式水槽 煙霧機、視聴覚機器（ビデオ・映写機等）、火災実体験装置、訓練用消火器、心肺蘇生用訓練人形、住宅用訓練火災警報器等

災害時の活動

災害時はどのような活動が必要？

災害時の主な活動は、次のとおりです。

① 情報収集・伝達《情報は正確に素早く伝達する》

災害の恐れのあるときや災害が発生した場合は、的確な対応をとるため正しい情報を素早く集め、住民に伝えることが大切です。



② 出火防止・初期消火《火が出たらすぐ消火する》

日頃から地域ぐるみで火を出さないよう徹底しておくとともに火が出たらすみやかに消火活動を行います。



③ 救出・救護《すみやかにみんなで行う》

大きな災害が発生すると建物の倒壊や落下物によって多くの負傷者が出ます。資機材を使って住民の方々を救出し、適切な応急手当を行います。



④ 避難誘導《落ちついてみんなで避難する》

町長から避難の勧告や指示が出されたときは、自主防災組織が中心になって、混乱なく安全に住民全員が避難できるように避難場所に誘導します。自主的に早期に避難すること重要です。



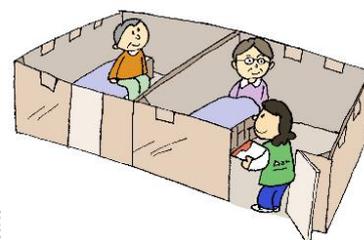
⑤ 給食・給水《水や食料はみんなで分け合う》

日頃から食料や飲料水・釜・鍋・燃料などの備蓄が必要です。
(※備蓄は最低7日分、飲料水は1人1日3リットルが目安とされています。)



⑥ 避難所運営《住民による自主運営が基本》

避難所運営については、町と連携して取り組みますが、住民による自主運営が基本となります。そのため、避難者の受入体制や運営組織の立ち上げ方、避難所での生活ルール等について検討しておきましょう。



災害に備える訓練

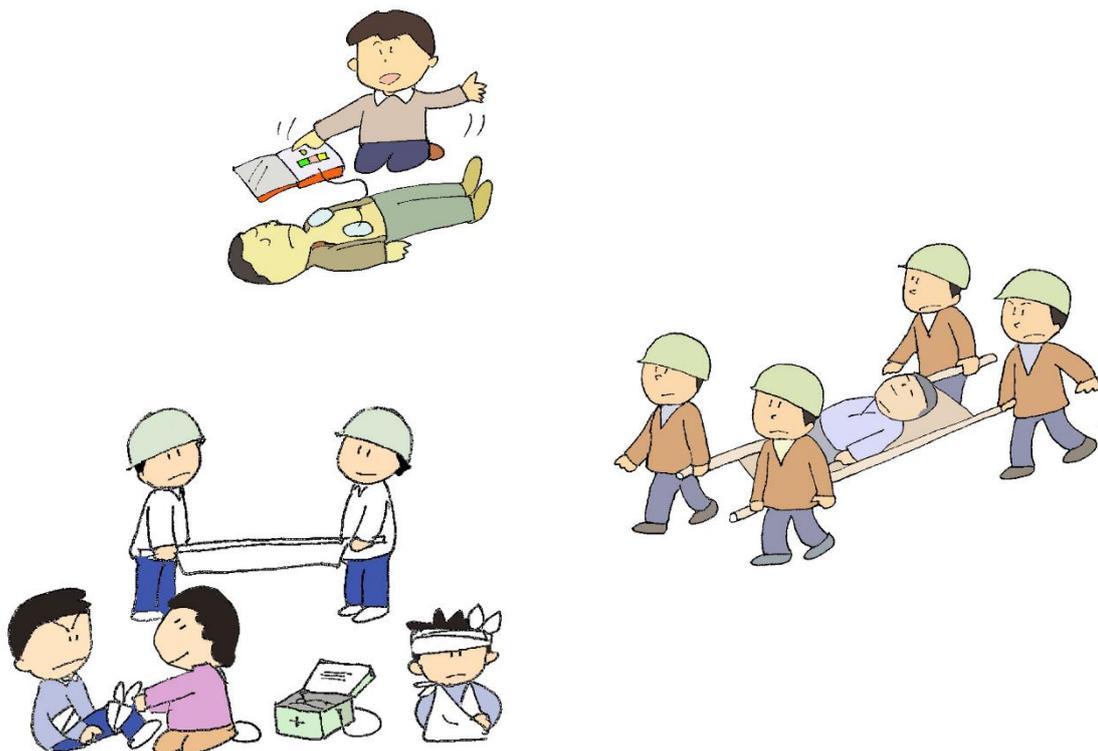
災害時に備えるためにどんな訓練をするとよい？

実際に災害が発生すると、思い通りに行動をすることは難しいものです。

そのため、日ごろから繰り返し訓練を行い、防災活動に必要なスキルを身につけておくことが大切です。

また、訓練実施にあたっては、行事などと併せて実施するほか、消防団をはじめ、地域団体と合同で実施するなど、より多くの住民の参加につながる工夫して取り組むことも重要です。

訓練名	内 容
個別訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集及び伝達訓練 ・消火訓練 ・救急訓練 ・避難所開設・運営訓練 ・避難訓練 ・救出、救護訓練 ・給食給水訓練 ・避難所体験訓練
図上訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に対するイメージトレーニングです。 ・高齢者や障害がある方等通常の訓練に参加できない方に対して有効です。
声かけ訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害のある方に対して避難を呼びかける訓練です。
総合訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・個別訓練によって習得した知識・技術をあわせて組織の各班がお互いに連携をとり、それぞれ効果的に防災活動ができるように訓練します。



感染症対策（避難所）

避難所に行くことになったら… 感染の不安もあると思います。

避難所に行くことになった時、私たちはどんなことに気をつけたらいいのか。

マスクを持っていない場合は、鼻と口を覆える大きさのタオルや手ぬぐいなども代わりに使えます。アルコール消毒液がない場合、ウエットティッシュも使えます。マスクなどは、自分で用意しておきましょう。

◇ マスク

◇ 体温計

◇ アルコール消毒液



※ 福岡市市政だよりHP参照「アマビエ足そう」

これまでの非常持出品に加え、マスクや体温計などを準備しておきましょう。

「アマビエ足そう」で覚えてください（妖怪「アマビエ」が動画でご紹介しています）。

（ ア=アルコール消毒 マ=マスク ビ=ビニール袋 エ=衛生用品 タ=体温計
ソ=ソープ(石鹸) ウ=上履き ）

避難所に入ったら三密を避ける

大事なのは「密閉・密集・密接」の3つの密を避けることです。

◇「出来るだけ換気を心がける」◇「他人と2メートルほど距離をとる」

◇「密接した状態での会話は避ける」



「密集」「密接」を防ぐためには、人と向かい合わせではなく背を向けて座るようにしたり、段ボールなどで間仕切りを作ったりすると効果があります。せきやくしゃみなどによる飛まつ感染の防止にもなります。



手洗いの徹底

食事の前や、トイレに行った後などは必ず手洗いやアルコール消毒をするようにしてください。ドアや手すりなど、多くの人が触るものに触れた後は、手洗いや消毒を徹底するようにしてください。

換気も忘れずに



【イラストは粕屋北部マスコットキャラクターより】

【イラストは公益財団法人 市民防災研究所より】

自主防災組織のQ & A

- 1 これから自主防災組織の結成をお考えの方
- 2 既に自主防災組織を結成されている方



1. これから自主防災組織の結成をお考えの方

Q：自主防災組織は何を行う組織か。

A：自主防災組織は、地域住民が自分たちの地域は自分たちで守ろうという連帯感に基づき、自主的に結成する組織であり、平常時には、防災知識の普及、地域の災害危険の把握、防災訓練の実施等を行い、災害時には、災害による被害を防止し、軽減するため、初期消火、避難誘導、炊き出し等の活動を行う。

いわば実働部隊としての役割を期待されています。

Q：自主防災組織がなぜ必要なのか。

A：大規模災害が発生した時に被害の拡大を防ぐためには、国や都道府県、町対応（公助）だけでは限界があり、阪神・淡路大震災では、瓦礫の下から救出された人のうち約 8 割が家族や近所の住民らなどによって救出された報告があるなど、自分の身を自分で守る（自助）とともに、地域の人々が防災活動に取り組むこと（共助）が必要になります。自主防災組織は、共助による防災活動を組織的かつ実効性のあるものとするための組織と考えています。

Q：自主防災組織を結成するにはどうしたらよいのか。

A：自主防災組織づくりには、何らかの契機をうまくつかみ、それを育てていくことが大切です。地域住民に自主防災活動に関心をもってもらうために、地域住民が集まる様々な機会を利用し、防災について話し合う場を設けることも有効です。

Q：自主防災組織内の役割分担をどのように決めればよいのか。

A：自主防災組織の活動を進めていくためには、組織を取りまとめる会長をおき、会長のもとに副会長ほか自主防災活動に参加する構成員一人ひとりの仕事の分担を決める必要があります。まずは地域に必要最低限の役割ごとに活動班を編成して徐々に編成を充実させることが考えられます。なお、班編成にあたっては、災害の発生時間帯によって班の人員に偏りのない配置にするとともに、特定の性別に役割が偏らないようにする工夫が必要です。

Q：自主防災組織をどのように運営していけばよいのか。

A：自主防災組織を編成し効率的に運営していくためには、組織の目的や役割分担を明確にした規約（運営ルール）を定めるとともに、日頃どのような対策を進め、災害時にどう活動するかを定めた防災計画を策定しておく必要があります。

Q：自主防災組織の運営にあたって市町村からの補助はあるのか。

A：市町村においては、経費の補助や資機材の現物支給が行われている市町村もありますが、現状の運営基金は、区費等で運営して頂いています。また、地域事業所から協力基金、非常食を提供して頂いているところもあります。

2. 既に自主防災組織を結成されている方

Q：自主防災組織の活動の参加者を増やすにはどうしたらよいか。

A：自主防災組織に参加してもらうためには、何よりも活動内容を知ってもらうことが必要です。最初から防災に特化して呼びかけても興味を持ってもらえないことがありますので、地域のイベントなどの地域活動の中で、防災について働きかけるといったアプローチも有効です。

Q：自主防災組織の活動を担う人材をどのように集めたらよいか。

A：自主防災組織の活性化には、リーダーの資質と熱意に負うところが大きいので、日頃から人材の掘り起こしが必要です。人材の掘り起こしにあたっては、地域のイベントの機会を利用し、地域の世話好きな人を見つけ交流を図りながら、日頃の活動を通じて発掘するとともに、地域内の消防職団員経験者などを巻き込むことも重要です。

Q：自主防災組織の活動のうち最も優先して行うべき活動は何か。

A：まずは、できることから一つでも行ってみることが重要です。このダイジェスト版では、自主防災組織の活動ごとに行うべき内容をまとめていますので、これらを参考にしながら、組織内で十分話し合い、何を行うか決めていくことが重要です。

Q：自分たちの地域は人口が少なく高齢者が多いため、自主防災活動を継続するのが難しいが、どうしたらよいか。

A：一地域で自主防災活動を継続することが困難な場合は、近隣自主防災組織と連携し、相互の応援協力体制や防災活動の共同実施することが考えられます。また、その場合、近隣の地域の自主防災組織と連合して、例えば小学校区程度の規模で連合組織を作ることも考えられます。

Q：避難所運営などを行うには、自分たちだけでは難しいが、どうしたらよいか。

A：自主防災組織単独での活動は限界があることから、地域防災力の向上には、地域の様々な団体と連携することが重要です。例えば、避難所運営については、施設管理者である学校や、運営を担う町との連携、避難行動要支援者対策については、民生委員や社会福祉協議会と連携していくことが考えられます。

Q：自主防災活動に関する教材などはあるのか。

A：消防庁では、インターネット上で防災に関する知識が学べる「防災・危機管理 e-カレッジ」や、子どもたちが防災に関する知識を学ぶための指導者用防災教材「チャレンジ！防災 48」を作成し、消防庁ホームページに掲載しております。